

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

56

## 化学物質リスク

私たちの暮らしはさまざまなリスクに囲まれている。全てのリスクをゼロにすることは不可能であり、いかにこれを正しく理解して適切に管理できるかが重要になる。

化学物質による環境リスクもその一つである。新たな素材や製品が日々生み出され、工業的に生産され、社会の中に広まることで私たちにさまざまな価値をもたらしている。

一方、これらに含まれる一部の化学物質が、意図的または非意図的に環境中に流出す

あるが、どのような環境リスクがあるかは実はいまだよく分かっていない。

環境リスクは「ばく露」と「有害性」に基盤により任意の化学物質の毒性を予測する技術の開発など、データ駆動型の研究開発が潮流の一つである。

### 強みを高める

最近の事例としては、マイクロプラスチックや人の健康に対する悪影響のリスクを評価する。一部に規制の動きがある。

### 優れた環境リスク評価

こうした、環境リスク評価をはじめとする安全性評価に関する科学技術基盤は、国が中

### 優れた環境リスク評価

心となり、産学官が一体となってしっかりと分野の基盤となっていく。最近では、機械学と必要である。それが必要である。それは社会の持続可能な発展や安全・安心な社会の構築に不可欠である。我が国の産業競争力強化にとっても重要なためである。

優れた環境リスク評価がなされた素材や製品はグローバルな訴求力を持つ。今や膨大な数の化学物質が日々生み出されており、低リスクな化学物質候補を効果的に抽出できれば、研究開発の加速化にもつながると期待される。

素材産業は我が国が強みを持つ産業の一つである。新たな素材や製品を生み出し続ける研究開発力（材料創成）

（金曜日に掲載）

# 安全性 評価研究 国の科学技術基盤に



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター  
フェロー/ユニットリーダー（環境・エネルギーユニット）

中村 亮二

首都大学東京大学院博士後期課程修了、博士（理学）。環境・エネルギー分野を幅広く担当。最近では「戦略プロポーザル環境調和型プラスチック戦略」（2020年3月）を作成。

## 素材開発の両輪

社会の持続可能な発展  
安全・安心な社会の構築  
産業競争力の強化

